

宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成25年5月29日（水）9：00～18：00
場 所	メイトム宗像203、204会議室
委 員	<input type="checkbox"/> 井上豊久、 <input checked="" type="checkbox"/> 岡田祐一、 <input checked="" type="checkbox"/> 志岐宏美、 <input checked="" type="checkbox"/> 辻洋子、 <input checked="" type="checkbox"/> 東博子、 <input checked="" type="checkbox"/> 松永年生、 <input checked="" type="checkbox"/> 南博、 <input checked="" type="checkbox"/> 宮崎弘子、 <input checked="" type="checkbox"/> 吉田晴希 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ・協働推進課；村上、吉永、吉丸、中脇、合島 元気な島づくり課；河野、中野、花田、村山 市民活動交流館館長；服部 むなかた市民フォーラム；梶栗、木村、種田、牟田、人見

1. 審査会

①個別審査

1、メイクハッピー&ピース「むなかたいのちかがやくプロジェクト」

団体から、提案内容について説明。

●実施場所、広さについて。

⇒畑は三郎丸。田は山田地蔵尊の近くなる。田は2反半。畑は、耕作者の一角を借りたり、その方が育てられているものを収穫したりしている。

●管理はどのように行っているのか。

⇒予算に賃借料管理料を計上し、それによって管理をお願いしている。

●来年以降の取り組みは。

⇒参加費を上げる、別の補助金を申請する、団体の支援者を増やすなどの方策を検討。

●予算の変更点は何か。

⇒大きくは変わっていないが、参加者が増えたので通信費や原材料費が増えている。スタッフ交通費等も増えている。

●市民のニーズは満たしていると考えるか。

⇒市内の参加者が7割。このような体験をさせたいと考える保護者は多いと思う。ただし、受け入れの条件があるので、一部難しいことはある。

⇒市の子ども育成課では子どもの居場所づくり事業を進めている。子どもたちの体験の場が求められているということは感じられる。その一役を担っていただいていると思う。どの程度のニーズがあり、それをどの程度満たしているか、ということは把握できていない。

●事業内容で、新規はあるか。

⇒昨年度は大豆を育てることに着目したが、今回は麦を使って小麦粉を作り、パンづくりをしたいと考えている。今畑にあるものが、どのように食物に変わっていくのかを知ってもらいたい。

●世帯数ほどの位か。

⇒毎回異なるが、6～7世帯。7割が通年で参加。稲刈り等であれば、40人程度の参加も可能であった。

●参加者の課題は何かあるか。

⇒どこに焦点を絞るか、と思う。参加者からは、学校に通えるようになった等評価をいただいている。

●ポスターやチラシの配布場所は。

⇒市内の公共施設をはじめ、店舗やバス停など、メンバーで手分けして配布している。

2、ゆめみらいNIPPON「宗像の魅力を活かした青年交流事業」

団体から、申請内容について説明。

●今年度は大島での「むな恋」のみ実施ということか。

⇒自己資金や参加者の負担金を考えると、このような補助金がないと実施できない。補助金を活用して、年1回はこの規模のイベントを開催したいと考えている。

●参加者の、その後のフォローは何かしているのか。

⇒きめ細かい支援をしている。お互いの意思の下、アドレス等情報の交換を行っている。イベント後、参加者同士での交流が行われている。その中から成婚に至った方もいる。

●参加費について、他の例と比べて如何か。

⇒「まちコン」などでは、4,000円から5,000円が相場のようなようだ。参加者の負担を減らすようには努力している。

●昨年の参加者で、一番の遠方はどこからか。

⇒対象は宗像市を原則としている。

●成婚者の数と、宗像市に住んだ数は分かるか。

⇒当方で把握しているデータになるが、7組。住まいについては、福津市を選んだケースもあるが、大部分は宗像市内に住んでいる。

●講師について、地元の方々との交流や連携も考えられないか。

⇒進化をしなければ、という思いから、今年の講師を決めた。メンバーにはJA職員などもおり、昨年度の魚さばきでは地元居酒屋の店主に協力いただいたりしている。地元資源の活用は十分視野に入れて取り組んでいきたい。

3、みさき寺子屋の会「地域が寺子屋！ コミュニティ寺子屋運動」

団体から、申請内容について説明。

●受益者負担の考えは難しいか。

⇒登録制度などもなく、いつでも来ていいよという形なので、難しいと思われる。登録制度の導入も困難。

●反響などについて調査したことはあるか。

⇒直接の調査はしていないが、館の都合で実施できなかったときに、今日はないのかとの問い合わせを受けたことはある。心待ちにされている様子。

- 昨年の審査で、大学生の関わりが不安との意見があったが、如何か。
⇒ 問題はない。欠員補充についても、大学生同士で都合をつけている。
- 大学の参加者は。
⇒ 2人が固定メンバー。引き継ぎ要員や代理についても、自分たちで連れてきている。
- コミセン使用料は必要か。
⇒ 使用料が必要。
- 子どもの安全対策が必要。保護者との関係や安全対策の情報は如何か。
⇒ どのようにして来て、どのようにして帰っているかは把握していない。誰が来たのかは分かるが。
- 有意義な活動だと思うので、危機管理については十分留意してほしい。
⇒ 行政からも、他の事例を参考に必要な情報は提供したい。
- 自主財源を計上しているが、初年度の実績は。
⇒ バザー収益で70,000円。不足分はコミュニティから補てんしていただいた。

4、正助さんの寺子屋の会「地域みんなが正助さん！ 正助さんの寺子屋運動」 団体から、提案内容について説明。

- 学童保育の開始時期は。将来的には学童保育に吸収されるのか。
⇒ 学童は平成26年度から。学童と寺子屋は別の活動になる。
- 参加者からの負担は、通学合宿や長期休暇の体験活動に充てられるのか。
⇒ 別途参加費を徴収する予定。米3合で参加なども実施してきた。
- 予算書の収入で負担金が計上されているが、受講料はどこに充てられるのか。
⇒ 別途資料代、教材費に充てる予定。
- 小学校の関わりは。
⇒ 教師との交流を行いながら、教材となるプリントなどの選定をお願いしたい。
- 開校日は、学校施設も開放してもらえるのか。
⇒ 基本的な拠点はコミュニティ・センターを考えている。送迎も含めて、吉武ならでの学習会を考えたい。学力向上に加え、地域のことを学んでいただきたい。
- 申し込みは随時受け付けか。
⇒ 随時受け付ける。
- 参加費はその時に支払いか。
⇒ 通学合宿など未確定のものもあるので、学習会分のみ。
- 高校生対象の次世代養成塾も開催されており、それとの連携事業も検討してはどうか。

～ 休 憩 ～

5、幸せな家庭環境をつくる会宮若支部「子育てQ-BU つみきであそぼ」 団体から、申請内容について説明。

- 出張積み木の場所は。
⇒自由ヶ丘の子育てサロンと玄海コミセンで行う予定。関係者の方から声をかけていただいた。
- アンケート等で参加者の感想を伝える工夫をお願いしたい。
⇒遊びの邪魔をしないように気を付けながら、参加者の声を拾うように努めている。様子をうかがうことはできるが、その場で用紙に記入いただくことは難しい。
- 積み木の数は増えていくものか。
⇒現在2千個揃えている。欠けたり傷ついたりしたものは使えないので、補充の必要はある。安全面の配慮が必要なので、単価は若干高めと思う。
- 年齢によって遊び方の違いがあると思うが、エリア分けのようにしているのか。
⇒エリア分けはしていない。壊したりしても、その場で謝ったりという関係性の構築も重要と思う。
- 宗像以外での実施は。
⇒宗像市内のみの実施。
- リピーターの状況は。
⇒3分の2はリピーター。
- 補助期間終了後の財源は。
⇒バザーなど検討中。同様の団体での協力体制も考えたい。
- 参加費徴収の予定は。
⇒出入りが自由なので、難しいと思う。出張の場合は交通費等の相談はできるが、自主活動の範囲では参加費は難しい。

6、すこやかライフサポーター「育児期の女性の心と体のケア事業」

団体から、提案内容について説明。

- 実施体制について、スタッフは有資格者か。
⇒独自にアシスタント講座を開催しており、その受講生がアシスタントスタッフとなる。バランスボール講師は、協会の認定が必要。講師を目指す人がいれば、インストラクター認定講座を紹介する。
- 構成員は増えているのか。
⇒育児期の方が多いため休止する場合もあるが、年々増えている。主催講座を受講して参加を希望する方が多い。検診時にチラシを配布しているが、手渡しするので、関係づくりがし易い。今後コミセンでも実施したい。
- コミュニティとの連携で、活動の継続が期待できる地区はあるか。
⇒見通しとしては、既に実施している地区は継続いただきたい。ルックルック講座にも登録している。
- 骨密度検査もアピールポイントになれば良いと思う。

7、がんばれ宗像！！「親子で学んで遊べる防犯教室&清掃活動」

団体から、提案内容について説明

- 防犯教室の実施時期や会場、定員などは決まっているのか。
⇒メイトムかコミセンで実施予定。その都度募集する。定員は30人程度。家庭に持ち帰って防犯意識を高めてほしいので、親子で参加いただきたい。
- 子どもの対象年齢は。
⇒遊んで学べるというテーマなので、3歳から小学生になる。1回2時間程度。
- 遊んで学べると防犯とのイメージがつかめないが。
⇒不審者が来た時の声出しや、風船ゲームで逃げる方法などを学ぶ。空き巣対策の話などもする。
- 講師はどのような方か。
⇒防犯関連のNPOの代表者など。
- どのような形で広めていきたいか。
⇒各コミュニティなどの要望に応じていくような形で実施していきたい。今はこちらでテーマ設定をしているが、要望に合わせてカリキュラムを組みたい。
- 障害者と家族のサポートが目的に入っているが。
⇒メンバーの中に不登校や障害児もいるが、清掃活動であれば一緒にできるので、今後も募っていっしょにやっていきたい。社会参加の機会を広げたい。
- 団体の創設時期は。
⇒最初は一人でやっていたが、団体としての立ち上げは今年の8月頃。
- 防犯教室を依頼すれば、企画運営からお願いできるのか。
⇒企画から運営まで行える。

ア、宗像ライフセービングクラブ「離島自然資源活用による交流活性化事業」

団体から、提案内容について説明。

- 4月から提案検討に入っているが、島民の感触は。
⇒まだ島には渡っていない。島民との協議はこれから。
- 事業名では離島とあるが、地島のことか。
⇒地島に限定するものではない。経験を活かして他の島も手掛けたい。
- 交流事業の中身は。
⇒ティーピーを活用したキャンプを実施。
- 対象は。
⇒島内と島外の小学生の交流を考えている。
- テントの大きさは。
⇒大きいものは大人が13人、小さいものが5、6人収容可能。
- テントは購入か。
⇒レンタル物品ではないので、購入。張りっぱなしで2年、時々使用であれば5年は使うことができる。
- 現在のところ考えている、活性化した島のイメージはどのようなものか。

⇒子どもたちを海や山で遊ばせる取り組みを行ってきた。地島の認知度も上げながらの事業を行い、交流を深めていきたい。

●安全面の配慮、見通しは。

⇒現在検討中。今までのレスキューの経験を活かし、リスクマネジメントは意識しながら行う。

●夏休みではないが。

⇒暑さがあるので、夏休みは外した。1泊2日で実施。

●事前調査費が計上されているが、回数は。

⇒2回分を計上。島民との打ち合わせ、実際に宿泊しての確認など。予算には計上していないが、間近になれば自費で行くことになるだろう。

●参加募集の方法は。チラシ代等も計上されていないが。

⇒市でイベントを集めたパンフレットを作成予定。それに掲載するので、予算からは外してもらっている。

●市の担当課からの意見は。

⇒イノシシの対策は十分検討する。

島づくり協議会の席で、当該事業の紹介は行っている。十分交流が図られるよう進めていただきたい。これを機に体験メニュー等の提案をいただき、地島振興に役立てていきたい。

～ 休 憩 ～

8、笑顔「介護と福祉の相談や支援」

団体から、提案内容について説明。

●実施時間は。

⇒10時から12時。一人30～40分かかっている。

●団体立ち上げの経緯は。

⇒有志が集まり、3月に結成。ボランティアセンターに登録。

●現在のコミュニティを選んだ理由は。

⇒協議会から申し出をいただき、周知や受付、資料印刷等を請け負っていただいた。

●現在のスタッフ体制では、他のコミュニティでの実施は難しいか。

⇒他のコミュニティでも実施したいと考えている。どのようにして協力を依頼してよいかわからない。広報の方法などもわからないので、コミュニティ事務局の力を借りたい。

●視察見学の内容は。

⇒NPOで立ち上げた施設がある。県の補助事業などを活用しているので、事例を検証したい。旅費は実態に即して見直す。

●需用費の内容の説明を。

⇒来場者へ提供する資料代、用紙やインク代となる。専門書のコピーなども渡してい

る。介護だけではニーズの把握ができないので、障害者の情報も載せた福祉新聞を購読したい。

- 福祉新聞を団体に購読し、コピーを渡すということか。

⇒団体の情報源として捉え、必要な情報を来場者に提供する。判りやすくして渡すようにしている。

- 赤間駅までの旅費が計上されていないが。

⇒そこまでの旅費は自己負担する。できるだけ利用者への還元に努めたい。

9、宗像音楽倶楽部ふれあい「高齢者身障者等の音楽活動支援」

団体から、提案内容について説明。

- 活動しやすい内容を検討するとあるが、具体的な説明を。

⇒企業の音楽教室や講師の所有物件で行おうとしたが制約が多かった。交通の便も考えて、河東地区コミセンが望ましいという結果になった。

- PRについて、去年はどのような取り組みを行い、今年度はどのような考えを持っておられるのか。

⇒チラシ作製が遅れてしまったので、今年はチラシ作製と演奏活動を同時進行できるように努めたい。

- チラシはどのような場所で配布したのか。

⇒配布はできなかった。活動日などに配った。現在、案を作成中。

- 楽器は自前か。

⇒現在のメンバー分は自前だが、新メンバー用にはレンタル用で揃えたい。

- 扱いは容易なものか。

⇒講師の選曲にもよるが、声を出すのが一番簡単なので、現在のバンドをバックに歌っていただくということを考えている。双方の練習になるので。リズムは認知症対策にも有効と聞いている。

- 会員も、教室毎に参加費を支払うのか。

⇒そのように考えている。活動を続けるうえで必要と考える。

- どのような演目をやっているのか。

⇒障害をお持ちの方が得意な演目となる。

10、Eg ブランダー「宗像市福祉事業所従事者ネットワーク」

団体から、提案内容について説明。

- 事業所によってやり方や考え方が違うと思うが、「Dファイル」という考え方の下にネットワークを作るといことで問題はないか。

⇒それぞれのやり方というものはある。生活支援と就労支援でも異なってくる。この事業で行いたいのは在り方である。姿勢を学ぶことで問題を解決し、成長につなげていきたい。発展させる思考パターンを身に付けていただきたい。

担当課としては、業務でのネットワークは市で行うが、厳しい業務を乗り越えるた

めの施策を提供されており、これは行政では手が届かないところになるので、広げていただきたいと考えている。

- 平成24年結成となっているが、その経緯は。
⇒平成23年度に同じ法人内で業務の一環として勉強会を始めたが、それに別法人が参加するようになり、業務とは切り離して市民活動団体として立ち上げた。
- 対象の30人というのは、宗像市内の事業所なのか。
⇒1期、2期が終了し12人が受講。うち10人が市内となっている。宗像市内を優先したい。
- Dファイル人材育成塾を個人的に受講した場合の受講料は。
⇒全9回で3か月に渡る。月1万円なので計3万円。補助金を活用して参加費を抑えたい。
- 福祉介護事業所甲子園はいつごろ開催の予定か。
⇒最終年に実施したい。

1 1、NPO法人宗像コスモス会「障がい者等の家族への支援事業」

団体から、提案内容について説明。

- バスハイクの行先は。
⇒自動車部品を活用した革細工を作っているのでトヨタ自動車九州を訪問し、飯塚方面に向かいたい。別途、多機能型小規模事業所の視察研修も計画している。
- 今までの事業との違いは。
⇒家族を軸としての事業展開。
- 先行事例はあるのか。
⇒全国的に活動は衰退している。支援の必要性については、細々と続けられている。
- 食事の場でのスクランブル交流は、どのような効果が期待できるか。
⇒温かさだろうか。自分は一人ではないという安心感など。作業所は家族が指導員だったが、最近になって専門の指導員が入ってきた。家族ならではの活動に向けられるようになった。当事者についても料理教室を開催し、おもてなし会を予定している。
- 家族相談について、実績が上がらなかったということだが、潜在的なニーズはあると思う。これに対する市の支援策は。
⇒福岡病院に委託しているが、年1回しか開催できていない。30人程度の参加があり、家族同士の話が止まらない。回数が限られるので、もっと気楽にできないかということで、チラシを市のHPに載せたりもしているが、まだ参加が少ないようだ。
- エアコン代が計上されているが、新規の設置か。どの事業に対応するのか。
⇒利用できる部屋が3つあり、和室にはエアコンがない。ここを食事場所として提供したい。家族の交流の場にしたい。

～ 休 憩 ～

カ、社会福祉法人さつき会「大島甘夏の特徴を生かした加工品づくり」

団体から、提案内容について説明。

●遊休耕作地の意味は。

⇒果樹園はあり実は成っているが、それを管理したり収穫したりする人がいない状況。そこを障害者が収穫する。

●無料ではないのか。

⇒収穫、加工して販売した売り上げの一部をお支払いしている。

●どの程度の広さか。

⇒遊休耕作地は広がっているが、対応できる範囲で収穫している。

道の駅に出荷をして売り上げを上げているので、若干耕作者は戻ってきているが、担い手不足は否めない。山手なので、高齢者には難しい。

今後も販路を広げる必要がある。今年はピューレに加工することにしており、可能性を広げたい。

キ、九州女子大学人間生活学科「大島のコミュニティ形成と生活を発展させる」

団体から、提案内容について説明。

●新メンバーの人数は。

⇒15、16人がエントリーしている。学外に出てコミュニケーション能力の足りなさに気付くようだ。人の役に立ち、自分を高めたいという希望の表れであろう。

●今後の活動予定は。

⇒補助事業はこれで終わるが、演習費を持っているので、何らかの形で続けていきたい。新たなテーマでの事業も検討したい。衣食住を学んでおり、食育活動もできる人材を育成したい。漁業や農業が盛んな大島を見て、どのように人が生きていくのか、産業がないと人口は増えないので、どのように産業を立ち上げるのか、珍しいものを作れば人は訪れるようになる、そのようなものを作れたらと思う。そのノウハウも蓄積させたい。

補助金は交通費に使用している。その他の経費は演習費を充てている。

●赤モク試食会などについて、島での報告会は実施しないのか。

⇒全員が集まる場もないので、実施していない。コミュニティには逐次報告している。学内版報告書は作っている。それをコミュニティに渡し、一年間の報告会を実施している。大学のHPにも掲載している。

●学外教育について、他にも事例があるか。

⇒以前に2年間、北海道に行っていた。過疎地域での交流事業を行った。遠いので単発となり、学生の負担も増えたので取りやめになった。大島なら頻繁に行くことができる。また、大学近くに農地を借りて、トマト栽培を行ったりもしている。

●学内でも定着しつつあるのか。

⇒3年目ともなり、根ざしつつあると思う。キャリア教育の必要性も感じている。

ク、大島を元気にする会「大島八十八ヶ所ルート周辺整備」

団体から、提案内容について説明。

- 千人参りそのものは、島外からも参加するのか。

⇒島外からのお客様を、大島の住民がもてなすという形になっている。

2日間で行われ、大島を体験する貴重な機会と考える。お接待の文化が廃れる中で、貴重な内容であると思う。

- 社内的な波及効果はあるか。

⇒社内でもボランティア活動に力を入れており、道の整備にも携わっている。当団体は有志ということで、会社とは距離を置くようにしている。

- 自己負担の内容は。

⇒会費等は特に徴していないので、参加者からその都度負担いただいている。

- 赤モクうどんづくりとは。

⇒コミュニティで企画が進められているもので、一緒に何かできればと思う。

ケ、宗像青年会議所「市民参加型ミュージカル大島物語」

団体から、提案内容について説明。

- 合宿の予定があったが、それとは別か。

⇒検討、調整中。三女神記のメンバーを中心に、大島の子どもたちを加えたい。世界遺産登録への推進にもつなげたい。

- 3日間の公演か。

⇒1日公演。島内、島外の出演者で交流しながら公演につなげたい。

- 自己資金は予算化していたのか。

⇒会員により捻出するか、基金で賄うことになる。無料公演。

- 作品はすでに制作しているのか。その経費は。

⇒現在制作中。演技指導の中に含めている。

- 音響費や舞台費はこれで大丈夫なのか。

⇒予算の範囲内ということ。変更となる場合もある。急な企画であったが、島民の方から、島の復興に寄与してほしい旨の要望があった。

予算書の旅費適用の修正あり。

1 2、金海・むなかた親善の会「宗像市・金海市市民交流事業」

団体から、申請内容について説明。

- 次は子どもたちを対象に新しい事業を行うということか。

⇒今までやってきたネットワークが金海市にできたので、ここで断ち切らずにこれを活用して、子どもたちに幅を広げていきたいと考えている。

- みなさんがやられている分をより深めるのが良いのか、次の世代にバトンタッチをして、韓国語が分からないけれどもそちらに重点を移すということか。

⇒重点を置くということよりも、自分たちの活動を継続しつつ、次世代への幅を広げたいということ。

- 現在の様々な問題が支障になったということはないか。
⇒政治的な問題が支障をきたしたことは、今までなかった。
- 講師謝金が計上されているが、どのような方を想定しているのか。
⇒言葉がわからない子どもたちを連れて行こうと考えているので、ある程度のあいさつや歴史を勉強して行こうと思うので、その勉強会に充てたい。韓国の遊びなども勉強したい。
- チラシ、ポスターについて、活用方法を聞かせていただきたい。
⇒小中学校を考えているので、学校への配布や子どもたちが集まるような場所に置くことを考えている。
- 募集の件について、市の広報などもっと広く募集してはいかがか。
⇒子どもたちへの情報の周知という面では、学校への掲示が一番と思う。
- 保護者の意識も重要と思うので、関連部署との連携をとる必要があるか。
⇒応募があった時点で、そこを踏まえた上での応募だろうと想定している。ポスター等にその旨記載したい。事前の説明会も開催できればと思う。

1 3、里山歩きの会SUN愛MUNAKATA「里山を護る活動を市民に広げる」 団体から、申請内容について説明。

- 実績報告では、会員の参加数が少ないようだが。
⇒現在の会員が43人ということで、昨年度の当初は16名、3月には30人になっている。全員が参加するという状況ではない。
- ホームページの開設など、外に手を広げすぎている感があるが。
⇒一般の方々向けの情報提供と考えており、一つの大きな目的である。必要な情報を会員がプリントアウトなどに利用している。
- 実施体制について、主催者として関わる方は何人いるのか。
⇒環境講座については5人の役員、登山については10人の経験者で携わる。
- 経験者が少ないので、あまり増やすと安全性が確保できないという状態か。
⇒積極的に増やすということではないが、希望者を断るようなことはしていない。山登りだけを目的とした人ばかりではなく、クリーン作戦などにも携わりたいという意識の方もいる。室内講座も数回いれることで、そのような方の満足度を高めていきたい。分科会のように分けての活動も考えていきたい。
- 委託費のソフト改修費の内容は。
⇒ホームページのソフトで不具合が生じているので、改修するもの。役員が直接入力できるように改善したい。
- マップについて、昨年度作成分は配ってしまったのか。また、今年度の制作部数は。
⇒450部は配布済み。市内のコミュニティを中心に配布している。追加分はHPからダウンロードしていただいている。今年度はほぼ同数で考えている。

1 4、改革プロジェクト「自然環境保全と防犯パトロール事業」

団体から、提案内容について説明。

●パトランについて、決まった時間に走るのではなく、徒歩でアトランダムにパトロールした方が効果的ではないのか。

⇒昨年度はそのように行っていた。それではどこにでもある内容であり、健康促進という側面からも、若者が集まりやすい手法を取り入れた。効率的ではないかもしれないが、仲間づくりや健康増進の面から取り組んでいる。

●DVDを制作予定だが、その内容は。

⇒清掃活動の内容紹介や、宗像の自然の素晴らしさをPRするような内容にしたい。海岸の清掃活動も含める。

●チラシやポスターの配布の具体的な方法は。

⇒ポスターは2種類で各50枚。地域ポータルサイトを運営しており事業者との関わりもある。そこでリストアップした数となる。ビラは、月平均500枚を想定して1年間を通じてのスパンで考えている。

●パトランを実施しての状況は。

⇒週に1回実施しているが、毎回違うコミセンを拠点にしている。誰かを捕まえるとかいうことではないが、参加者も増えてきており、手ごたえは感じている。人が集まりやすい時間帯の設定や、不審者が出没しやすい場所や時間の検討も行いたい。

●チラシの配布方法は。

⇒住宅街や教育大周辺で配りたい。その他の地区も考えている。ポスティングが基本で、ポスターを掲示いただいた所に配置する。

15、福岡やま繭の会「クワコを通して次世代に自然の大切さを伝える」

団体から、提案内容について説明。

●植樹を予定されているが、具体的な内容は。どのような結果を導こうと考えているのか。

⇒子どもたちが小さな生き物の命を育む、まわりにあるのに気付かないということ伝えたい。この生き物は、研究資源として大切なもの。10本程度を予定。玄海地区が望ましいと思う。

●自然環境保護団体と連携したいとのことだが、具体的な相手はあるのか。

⇒水と緑の会を考えている。

●機織りの講師はどのような方か。

⇒玄海地区に居住されている方。できるだけ地域の方をお願いしたい。

●学校では青虫について取り組んだりしているが、教育関係との連携や協議をして学校教育に組み込むことは考えられないか。

⇒すでに相談し実施したが、夏休みで子どもの参加はなかった。他の地域で、子ども会などに投げかけた方がたくさん集まった。

●この活動を通して命の大切さを伝えることが、どのように関わるのか。

⇒食物に関係してくる。見た目は虫だが、たんぱく質の塊である。食料がなくなった

ときに、これは食べられる。最後はここに帰着するのではないかと思う。虫は何のために生きているのか、といことを考えてほしい。

- 人間にとっての生き物の大切さ、という視点であろうか。それならば理解できる。
- 虫なりの生き様を学ぶことが大切なのではないか。
⇒最終的には、何か生物があれば生きていけるということも学んでほしい。

～ 休 憩 ～

2 2、J Aむなかたアグレステンペ大豆加工グループ「大豆で健康づくり」

団体から、提案内容について説明。

- J Aの販促部門に所属しているのか。
⇒生産者で、婦人部で立ち上げた団体。J Aとは別組織となる。
- テンペ自体がどのように加工され、どのような栄養価があるのか等が示されていない。
⇒今回は、テンペの販売促進ではなく大豆を食べてほしいというコンセプトである。大豆の加工品としてテンペもあるということで、テンペは一環に過ぎない。
- テンペにすることによる効果はどのようなものか。
⇒テンペ菌で作る。普通の大豆よりも消化吸収が良い。高齢者や乳幼児にも適している。
- 予算に計上されているパネルは、昨年と同じものか。
⇒内容の差し替えが可能となるようなフレームを購入したい。
- 幼稚園等の試食会を予定されているが、交通費は必要ないのか。
⇒自前で賄う。

1 7、吉武歴史観光ボランティアの会「地域資源を活かしたまちづくりプロジェクト」

団体から、提案内容について説明。

- 今年で終了か。
⇒補助金は今年度で終了だが、活用は今後も続いていく。
- まちづくり協議会は、歴史観光ボランティアも入っているのか。
⇒様々な団体で構成されている。コミュニティ運営協議会は任期がある。人材バンクとした役割を持たせたい。
- 資料の発行部数の実績は。
⇒「吉武物語」は400部。イベントの度に配布することはできないので、ポイント毎にまとめた資料を3,000部程度作った。
- ユニホームの追加があるが、新規加入の見込みがあるのか。
⇒ガイドだけでなく、スタッフとして参加いただいた方にも渡したい。
- 行事が多く、メンバーも重複すると思うが、もう少しスケジュールを明確にした方が良いのではないか。
⇒コミュニティの行事と合わせて実施するものがある。そことの調整をしながら決め

ていく。

- 案内板について、昨年も計上されていたが。
⇒劣化しているものの修理が必要となってきた。
- 行政において設置する案内板との兼ね合いは。
⇒特段の統一した計画はなく、担当部署毎に作成設置している。
- 設置場所は私有地になるか。
⇒私有地や神社等敷地内になる。小学校もある。

1 8、宗像よしたけ山村興し地域協議会「吉武コミュニティと連携した都市農村交流推進プロジェクト」

団体から、提案内容について説明。

- 3年度終了した後、新たな組織を立ち上げて他の地区に拡大していくのか。
⇒吉武地区内の組織となる。
- 検証ツアーの実績を具体的に説明いただきたい。
⇒総数で93人。アンケートを実施し、検証を行った。観光ボランティアの案内や、朝食の際の食材についてのことなど、高い評価をいただいた。
- PRツールについて、増刷等であればデザイン料は必要ないと思うが。
⇒全く違うものを作成する予定。3年をかけて様々な検証をしたい。
- パンフットの予定枚数は、全て配布可能か。
⇒可能と考えている。
- 広告費は、どのような使い方をするのか。
⇒福岡市や北九州市の冊子の有料広告を使用する。
- 協議会とこころ会、正助ふるさと村との関係は。
⇒こころ会が作った商品の販売先は正助ふるさと村、グローバルアリーナ、こころ市ということになる。昨年度では福岡ドームでの販売も行った。協議会はそれらのフォローを行う。パンフレットは九州全域に配布している。
- 需用費に計上されている告知カードについて、総額と補助対象経費の差額の対応は。
⇒自社経費で賄う。
- 事務局へ、こころ会は営利を目的と捉えられるが、その告知ツールを補助金で賄うことに問題はないのか。
⇒確認する。
こころ市での販売は行うが、イベント時の野菜の提供等は無償で行っていることを、参考までにお伝えする。

1 9、筑前七浦の会「美味しい宗像をおすそわけ」

団体から、提案内容について説明。

- 宗像のメインは魚になるか。
⇒6月はイカと野菜、2月はフグを扱う。

- 今まで活動してきた中で、今回この補助事業に提案された理由は。
⇒広域観光という観点から関係市町に協賛をいただいていた。人づくりまちづくりという視点で、宗像市に特化した内容で申請した。宗像産のイカの使用や、宗像市の講師の活用など。
- 今後、他に売り出したいものはあるか。
⇒さばき方や料理の仕方なども紹介したい。フグはカナトフグを使う。みんなでお勧めの料理を考えていきたい。次年度以降は別の食材を考える。
- 大島の特産品も考えられるか。
⇒地域の食文化の継承にも取り組む。地域産品の開発として、新たな食材も探していく。
- フグの種類によっては、免許がいらないものもあるのか。
⇒カナトフグは毒がないので、免許は不要。道の駅などでも購入できる。ただし、どのようにしたら一番おいしいかということが分からないので、研究したい。

～ 休 憩 ～

ウ、元気な島づくり協議会「じのしま漁師食堂」

団体から、提案内容について説明。

- 船の航路が変わったが、実績はどのようになっているか。
⇒観光の要素では把握していないが、地引網等は増えてきている。島の知名度が上がって来ており、土日の朝の便で釣りやウォーキングに参加される方が増えているのでは、という感触は得ている。
- 航路改変で遠くなった。場所が変わった、新しい船に変わったことでの影響は。
⇒フェリーについては、行って30分くらいで帰って来るというのが現実で、観光に結びついていないとはいえない。V字航路となったことは、大島への来客者に地島を知っていただくことに繋がっているようだ。
- 椿の時期に訪問される方が多いと思うが、その時期の実施はできないか。
⇒3月が若布の時期となり、繁忙期になってしまう。椿まつりの時は1日だけ休漁してイベントで椿あぶらごはんの提供等を行うということにはなっている。
- 収支について、補助対象外であるが、賃金が10万円支払われ、自己資金が8万円ということは、どのように考えるべきか。
⇒実態として、これに近い状態というほかない。
- 事務処理上の話ではあるが、最低賃金法に抵触していないか。
⇒実働時間を鑑みて、クリアしている。
- JR駅のポスターは、この事業から支出されているか。
⇒PRツールは市が負担している。集合チラシを作成し、必要に応じてコピー等をしている。

●10月のイベントから事業化へ繋がることは考えられないか。売店設置など、活性化に繋がるような施策は検討されていないか。

⇒活性化を目的とした、継続的な施策の検討は行っているところ。食堂経営については、個人的にやってみたいという意見もあるやに聞いている。このような動きが出る方向性は認識しながら行っている。

エ、地島キャンパスの会「みんなの参加型・元気な地島づくり事業」

団体から、提案内容について説明。

●交流促進事業について、具体的な案はあるか。

⇒検討中だが、福岡教育大学の美術の先生と協議を進めている。

●通信費のハガキの用途は。

⇒島外へ、漁村留学の件で使用する。

●大島や地島がマスコミで取り上げられることが多かったが、市から依頼することもあるのか。

⇒記者発表には必ず報告し、知名度が上がった事業については、マスコミから取材の申し込みがある場合もある。

イ、地島グランドゴルフ交流グループ「グランドゴルフ親善大会開催による交流事業」

団体から、提案内容について説明。

担当課から、補足説明。

●昨年の開催は1回のみか。

⇒小学校でも実施してほしい旨の依頼があったため、本会の実施は1回となった。予算も削減され、不足していた。

●今年度申請の予算であれば、2回の実施は可能か。

⇒小学校は継続の意向が強い。数多くは実施したいが、様子をみながら検討したい。島外からお越しいただくのも大変で、できればお土産も用意したいと思う。

●グランドゴルフ、キャンパス、漁師食堂の事業について、同時期に一緒に実施することは考えられないか。

⇒継続は必要、その方策については検討中。

単独での開催しかできないだろう。

●この質問は当該事業の審査からは外れているので、そこまでとする。

●継続の希望ありとなっているが、5年目事業ではないのか。

⇒5年事業の5年目となる。申請書が記載誤りである。

オ、大島再生維新の会「大島再生事業」

団体から、提案内容について説明。

●原材料費について、積算した内容に基づくものか。

⇒概算ではあるが、原材料となるものから積算している。うどんを作る際の粉のほか、

機材も必要になってくる。

- 機材は、消耗品に計上されているものもあるが。
⇒わかめ、赤もく、調味料等で計算している。
- 島外の参加者の割合は。
⇒30人前後。島内は3分の1程度となる。芋ほりについては、島内が4人、島外が25人、花苗植えが20人、うち島内が4人。島内にも呼びかけをしていきたい。
- 大島の活性化のためには、大島の特産品開発等の考えはあるか。
⇒塩トマトに取り組みたいと考えている。玉ねぎ氷もある。
- 海産物は考えていないか。
⇒赤もくの佃煮を活用したピザなどを考えている。
- 苗木が計上されているが、樹木もあるのか。果物など。
⇒樹木は考えていない。先々考える必要はあろうかと思う。
- 夏みかんなど、手が付けられない所は多いのか。
⇒知人に頼んで収穫などされているようだ。
- 広報の方法は。
⇒市で、集合チラシを作成してPRしている。市内施設の配置や、市外で行われるイベントでの配布を行っている。市広報紙にも掲載している。DMも実施している。
- 耕作地を増やすことは考えていないか。
⇒今年度は考えていない。

～ 休 憩 ～

20、国立大学法人福岡教育大学「講座むなかた！ムナカタ！宗像！Ⅳ」

団体から、提案内容について説明。

- チラシについて、宗像と福津の全戸配布で何枚になるか。
⇒7,000枚になる。
- 他の配布方法は。
⇒県内の主要施設、図書館や博物館を考えている。それと学校関係も。全戸配布のほかには、図書館や博物館で見て来場された方が多い。
- 世界遺産以外の宗像学とはどのようなものと考えているか。
⇒昨年は伊能図を取り扱った。それも含めて考えている。分野を広げていきたい。
- トータルの事業費としては、昨年度比はどうか。
⇒DVDを減らした程度となる。
- 小学校や中学校との関わり方はどのようなものと考えているか。
⇒担当者の案では、世界遺産に関するカルタの案の募集などがあつた。伊能図について、学校から近い場所もあるので、授業で取り上げていくなども考えられる。

21、玄海ニュースポーツを楽しむ会「ニュースポーツを通じた地域交流事業」

団体から、提案内容について説明。

- 参加者の実績について、どのような推移をたどっているか。

⇒実績は資料に掲載したとおり。昨年はリーダー養成に力を入れ、元気な方を対象に夜間に実施、1回5～7人の参加であった。

- 基本は高齢者の体力づくりということになるか。子どもや一般は対象外となるか。

⇒一緒に入ってもらいたい。そのために土日を設定している。コミュニティ主催の大会では、異年齢交流を行っている。子どもたちは、最初は乗り気ではなかったが、終わり間際には楽しんでいた。

- 全15回の開催で、参加費は500円の50人となっている。この関係はどのように考えたらよいのか。

⇒参加費を徴収すると来ていただけないので、14回目までは無料とし、合同で実施する大会に限って参加費をいただく。50人の参加があるかどうかはわからないが。

- コミュニティで実施するもの、島外団体が主催するもの及びコミュニティから要請されて指導するものの3とおりがあるといふことか。

⇒お見込みのとおり。

- 合同大会は50人を想定しているとのことだが、複数の種目を実施するのか。その時のスタッフ体制は。

⇒体験した方がすぐに実施できるようになるので、その方をお願いする。

- 参加者の年代は。

⇒60代、70代、80代となる。座ってもできるような種目を選んでいる。

- 福祉会などとの連携はとっているか。

⇒敬老会などに相談している。そこでもリーダーになる方がいるので、声をかけている。

- ゲームの前や後に、ミーティングのような、交流の時間は設けているか。

⇒今までは実施してなかったが、参加者同士で集まっていたので、お茶菓子なども用意しようかと考えている。

- その経費は。

⇒カンパを募るなど、自主財源で賄いたい。

16、宗像市消費者交流会「明るく楽しく学ぶ消費者講座」

団体から、提案内容について説明。

- 高齢化で様々な問題が顕在化している。この課題への対応が弱いように思われる。

⇒現在までも実施してきている。寸劇仕立てなどで判りやすくかつ実感いただけるような形で実施してきた。市には消費生活センターがあり、絶えず連携をとりながら啓発活動を行っている。この団体が直接市民の手足となって、連携を図れるようなパイプ役も果たしていきたい。

- コミセンでの指導者会なので指導することになるのか。

⇒その他に、老人会などでも啓発活動を行う。

- 今回の事業内容への参加人数はどの程度か。
⇒各回50人を想定している。
- その方々は会員になるのか。
⇒会員プラス一般市民となる。半数から35人位が会員となる。
- 会員外の参加費が負担金に計上されているのは問題ないか。一般市民の参加費は別立てで計上すべきと思うが。書類上の整理の問題なので、確認のうえ必要に応じて差し替えを。
- 会員だけに限定されたサービスは補助対象外となるので、整理が必要であろう。
- 実施スケジュールについて、消費者センターによる講演以外は、問題に直結した啓発活動などは行われているのか。
⇒毎月の行事の際に、ホットなニュースを参考にお話しさせていただいている。広い知識を持った消費者になっていただきたいという思いで、事業を企画している。
- 高齢者被害の問題などにもっと視点をあてるべきではないか。
⇒ご指摘のとおりと思う。しかし、参加者が偏らないようにとの配慮もある。センターも良く機能しているので、そことの連携もとっていきたい。
- この団体では広報の実績や計画はあるか。
⇒市民以外が対象となるような、センターが行けないような啓発講座の開催など、センターとの調整を測りながら実施している。

～ 休 憩 ～

2. 検討会

①個別事業検討

ア、ライフセービングクラブについて

- ティーピーについては、共同使用などの有効利用に努めてほしい。この2点を特記事項とし、採択とする。

1、メイクハッピー&ピース

- 特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

2、ゆめみらいNIPPON

- 特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

3、みさき寺子屋の会

- 子どもの行き帰りの安全面については十分検討することを特記事項として、採択とする。

4、正助さんの寺子屋の会

●子どもの行き帰りの安全面については念を入れること、グローバルアリーナ・福岡教育大学・コミュニティ運営協議会などと連携しながら取り組みをすすめることを特記事項として、採択とする。

5、幸せな家庭環境をつくる会宮若支部

●参加費を徴収するなど自主財源の検討を進めることを特記事項として、採択とする。

6、すこやかライフサポーター

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

7、がんばれ宗像！！

●ポスターチラシ製作費については、経費削減に努力すべき。16,000円減額して80,000円とすることを条件として、採択とする。

8、笑顔

●同じような取り組みをしている市民活動団体もあるので、それらの団体とのネットワーク作りに心がけることを特記事項として、採択とする。

9、宗像音楽倶楽部ふれあい

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

10、Egブランダー

●Dファイル人材育成塾参加費が適正かどうかの再検討を特記事項として、採択とする。

11、宗像コスモス会

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

カ、社会福祉法人さつき会

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

キ、九州女子大学家政学部

●事業に参加した学生が、大学卒業後も大島との交流を継続できるようにすることを特記事項として、採択とする。

ク、大島を元気にする会

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

ケ、宗像青年会議所

●大島の方々の出演については、特段の工夫をすることを特記事項として、採択とする。

1 2、金海、むなかた親善の会

●国際交流担当課のアドバイスを受けながら、事前の学習会や保護者への説明会を実施する、チラシ等の委託費については、額が適当であるかどうかを担当部署と打ち合わせを行うことを特記事項として、採択とする

1 3、里山歩きの会 SUN愛MUNAKATA

●昨年不十分だった環境に関連した講座を計画的に実施する。登山については、安全確保のスタッフ配置を十分検討したうえで実施する。活動を継続するために参加費について検討する。を特記事項として、採択とする。

1 4、改革プロジェクト

●チラシ等を効果的に配布し、事業の周知に努めることを特記事項として、採択とする。

1 5、福岡やま繭の会

●クワコが生育できる自然の貴重さと環境保護の必要性に子ども達が気づくような取り組みを希望する。いのちの大切さについてより多角的に子ども達へ伝える。を特記事項として、採択とする。

2 2、JAむなかたアグレステンペ大豆加工グループ

●テンペの有効性についてもっとPRしながら活動を進めること、を特記事項として採択とする。

1 7、吉武歴史観光ボランティアの会

●特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

1 8、宗像よしたけ山村興し地域協議会

●こころ会の活動告知カードの作成費用については、かかった費用の半額を補助対象経費とすることを付すべき条件とする。昨年までの事業評価を十分生かし、より集客効果のある事業を企画し実施することを特記事項として、採択とする。

1 9、筑前七浦の会

●特記事項、付すべき条件なしで採択とする。

イ、地島グランドゴルフ交流グループ

●今後も取り組みを継続できるような体制をつくることを特記事項として、採択とする。

ウ、元気な地島づくり事業協議会

- 事業化の可能性も検討しながら進めていただきたいということの特記事項として、採択とする。

エ、地島キャンパスの会

- 特記事項、付すべき条件なしで採択とする。

オ、大島再生維新の会

- 大島の特産品での交流会の企画を検討する。大島ならではの特産品の開発を期待するとともに、雇用の場の構築を目指してほしい。島内からの参加者を増やす工夫をしてほしい。大島の独自性をもっと付加しながら事業を進めてほしい。これを特記事項として採択とする。

20、国立大学法人福岡教育大学

- 特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。

21、玄海ニュースポーツを楽しむ会

- 将来的に継続して実施できるよう、参加費などについて検討することを特記事項として、採択とする。

16、宗像市消費者交流会

- 特記事項、付すべき条件なしで、採択とする。
- 個別審査時のおり、予算書の差し替えは必要。

②全体検討

松永副会長から、203会議室分の結果報告。
東会長から、204会議室分の結果報告。

3. その他

①審議会謝金の変更について

事務局から、変更について説明。

②人づくりまちづくり事業補助金の2次募集について

5月31日の審議会でも検討いただきたい。

＝ 散 会 ＝